

福山大学大学院 工学研究科 令和元(2019)年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的

領域： 使命・目的、教育目的

2019年度

工学研究科

中長期計画	・備後地方の産業界の中核を担う技術者を育成する。「修士課程又は博士前期課程においては、物理系工学又は生命系工学分野における広範な学識及び先端技術等を修得し、高いコミュニケーション能力を養うことにより知識基盤社会を支える専門技術者・実践的指導者として活躍できる人材を養成する。博士課程又は博士後期課程においては、高い専門性が求められる社会で自立して研究活動を行い得る研究能力と研究指導能力、それらの基礎となる豊かな学識と研究倫理観を備えた人材を育成することを目的とする。」と院生便覧に謳われている。

2019年度

工学研究科

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	建学の理念と中教審の考え方とのつどり研究科の理念・目的を定めている。
年度目標	大学院の現状を考慮し、使命・目的の検証を継続的に行う。
年度報告	現状で使命・目的に問題ない。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	社会の要請に応える高度な工学技術者・研究者を目指すと、研究科HPにて明示している。
年度目標	現在明示している個性・特色について検証を行う。
年度報告	適切な個性・特色を明示している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	地域産業の発展のためのブランディング事業に取り組んでいる。
年度目標	ブランディング事業について検証し、問題点などについて検討する。
年度報告	ブランディング事業の評価については、安全安心防災教育研究センターで行われた。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

工学研究科

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	学生便覧、HP、募集要項の作成において周知し、承認をとっている。
年度目標	現状維持
年度報告	昨年度を継続した周知・承認を行っている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019、②福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	学生便覧やHPにより周知している。
年度目標	現状維持
年度報告	昨年度を継続した周知を行っている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019、②福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	現況を元に中長期的計画の検証をしている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	現況を元に三つのポリシーの検証をしている。

年度目標	現状維持
年度報告	現状がポリシーに反映されていることを確認した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	物理系:修士課程の4専攻、博士課程の3専攻の指導教員の研究内容と教育内容の整合性が取れている。 生命系:3学科からの教員から成り、その研究および教育内容と整合性が取れている。
年度目標	現状維持
年度報告	教育研究の構成は使命・目的を達成するのに適している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②大学院入学試験学生募集要項
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

工学研究科

基準2. 学生

領域: 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2019年度

工学研究科

中長期計画	・各専攻で定員を満たすように複数名の入学生を確保する。
-------	-----------------------------

2019年度

工学研究科

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	アドミッション・ポリシーについて確認し、学生便覧、HP等で周知している。
年度目標	現状維持
年度報告	アドミッションポリシーの適切性の確認およびこれが周知されていることを確認した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019、②福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	募集要項に明示しており、面接試験において検証している。
年度目標	現状維持
年度報告	面接で確認する現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学院入学試験幕政募集要項
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	物理系：入学定員9に対し平成30年度の入学学生数は6、平成31年度は？名である。2年連続入学者数は増えているが、まだ定員を満たしていない。大学院進学の利益を学生に説明しきれていないこと、高額な学費、などが理由として考えられる。 生命系：平成30年度は入学学生数4名に対し平成31年度は2名となった。就職状況が良いので進学希望者が減少していると思われる。また他の大学の大学院への進学者が1名いた。国公立に比べ高額な学費、教員の高齢化等による研究活性化の低下等が理由として考えられる。
年度目標	大学院入学者の増加のため上記の課題について検討する。
年度報告	自己点検計画書作成において検証・分析を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①R1自己点検計画書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	工学研究科全体として定員を満たしていない。宮地茂記念館において大学院入試説明会、院生の研究発表会、またHPを用いた広報を行い、社会人院生や他大学からの受験生の増加を図っている。 生命系の状況：M1が2人（定員8人）、M2が5人（定員8人）、計7人（定員16人）である。
年度目標	現状維持
年度報告	大学院説明会、研究発表会、ホームページを用いた広報を実施した。物理系では秋入学制度を導入した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ ②工学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 2-2. 学修支援	
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	物理系:3月の院生発表会、中間発表会(院生発表会を含む)、4月の研究計画の研究科委員会への提出を研究科委員会で審議・報告しており、計画的に実施している。 生命系:5月および翌年3月に院生の研究発表会を行っており、各指導教員および職員で協働して計画実施している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状説明にある発表会を実施した
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学院研究発表会(2/29)、②中間発表会(5/23)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	物理系:大半の院生が学部の演習授業のTAを担当している。 生命系:社会人院生を除く院生が、学部に学生実験を担当している。平成30年度は院生13人が一人当たり27時間程度担当した。
年度目標	現状維持
年度報告	昨年度に継続して有効に活用した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部予算申請書、②生命工学部予算申請書
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 2-3. キャリア支援	
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	・教育課程にキャリアワークを設定しているほか、全学および学部と協力して支援は適切に運用されている。 ・博士課程にはキャリア教育科目は設けられていない。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	<p>物理系:(全学教授会資料による)</p> <p>2016年度 修了者数 3人、内定者数 2人、博士課程進学 0人、その他 1人</p> <p>2017年度 修了者数 4人、内定者数 4人、博士課程進学 0人、その他 0人</p> <p>2018年度 修了者数 5人、内定者数 5人、博士課程進学 0人、その他 0人</p> <p>生命系:</p> <p>2016年度 修了者数 4人、内定者数 3人、大学院後期進学 0人、その他 1人</p> <p>2017年度 修了者数 1人、内定者数 1人、大学院後期進学 0人、その他 0人</p> <p>2018年度 修了者数 12人、内定者数 10人、大学院後期進学 0人、その他 2人</p>
年度目標	全員就職を目指す。
年度報告	<p>物理系:(全学教授会資料による)</p> <p>2017年度 修了者数 4人、内定者数 4人、博士課程進学 0人、その他 0人</p> <p>2018年度 修了者数 5人、内定者数 5人、博士課程進学 0人、その他 0人</p> <p>2019年度 修了者数 5人、内定者数 5人、博士課程進学 0人、その他 0人</p> <p>生命系:</p> <p>2017年度 修了者数 1人、内定者数 1人、後期博士課程進学 0人、その他 0人</p> <p>2018年度 修了者数 12人、内定者数 12人、後期博士課程進学 0人、その他 0人</p> <p>2019年度 修了者数 4人、内定者数 4人、後期博士課程進学 0人、その他 0人</p>
達成度	A
改善課題	本人の努力に加えて教職員が連携した指導により、今年度は全員就職が達成された。
根拠資料	①全学教授会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	全学と同様に就職課、教務課のインターンシップなどキャリア支援を利用できる。
年度目標	大学院生のみを対象とするインターンシップ等の開拓を試みる。
年度報告	大学院生のみのインターンシップの開拓の実施が行えなかったが、全学のインターンシップで対応できるようになった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	全学と協調したインターンシップの開拓をさらに検討する。
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	全学の就職委員会の計画に従い、学部生と同様の方法で就職担当が指導にあつたつている。検証は研究科委員会で行っている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
2019年度	工学研究科
中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	修学支援、生活支援、進路支援は学部生と同様の組織で実施している。奨学金制度を利用する院生も多い。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	全学の規定に従い、学部と協力して指導教員が問題解決に当たる体制となっている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学研究科委員会議事録 ②大学院生アンケート ③学生便覧2019(ガイドライン)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	物理系:工学部での取り組みと一体化している。 生命系:生命工学部での取り組みと一体化している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 2-5. 学修環境の整備	
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	・教育研究環境の整備は学部の教育研究環境の整備の一部として実施されており、大学院としては個々の院生の環境の整備に留まっている。
年度目標	各専攻ごとに教育研究環境の整備方針について検討する。
年度報告	学部に準じている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①予算申請書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	特論、特別演習、特別研究で活用している教員がある。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①図書館入館記録, ②2019年度シラバス, ③大学院アンケート集計結果
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	・物理系: 工学部棟内外に院生の集いの場は整備されている。 ・生命系: 生命工学部では学科単位でアメニティの確保を行っており、院生も同様に利用する。また28号館入口に学部、大学院共用のアメニティ空間が設置されている。また内海生物資源研究所では1号館食堂をアメニティーとして利用している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①予算申請書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	工学系: 学部の授業と重ならないように大学院授業を行う場所が確保されている。 生命系: 講義では10人程度の少人数用の大学院講究室やセミナー室などを利用している。
年度目標	現状維持

年度報告	現状を維持して適切に管理した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教務の手引き2019
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	
年度目標	
年度報告	
達成度	
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	大学全体の管理システムに従っている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①安全衛生委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	全学で安否確認訓練が実施されている。 福山大学危機管理基本マニュアル、危機別個別マニュアル、自然災害対応マニュアルが作成された。
年度目標	危機管理基本マニュアル等について周知する。
年度報告	現状通り実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学安全衛生管理の手引き

次年度の課題と改善の方策	
2019年度	工学研究科
中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	大学院アンケートを行い、集計結果について研究科委員会で検討し、フィードバックしている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	各指導教員が院生の意見等を把握し、重要な事柄については研究科委員会で検討し対応する。学生課や保健管理センターとも連携する。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	各指導教員が院生の意見等を把握し、重要な事柄については研究科委員会あるいは学部・学科で検討し対応する。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学院生アンケート
次年度の課題と改善の方策	

基準3. 教育課程**領域： 卒業認定、教育課程、学修成果**

中長期計画	・専門性を高めると同時に関連する幅広い分野の科目選択を可能にする。また、語学教育、キャリア教育を充実する。 ・全員が学会発表を経験し、地域産業社会で重要な役割を果たす人材となること。
--------------	--

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	学生便覧、HP等により周知している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019 ②福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	毎年、研究科委員会で検証し策定している。学生便覧、HP等により周知している。
年度目標	物理系:修了認定基準について改定を行う。 生命系:修了認定基準等のループリック評価について検証する。
年度報告	現状と同様に周知した。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019 ②福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	物理系:修了認定基準の検証を実施する
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	単位認定基準、進級基準、修了認定基準は学生便覧、HP等により公表し、厳正に適用されている。学位(修士)論文と口頭試問に対してループリックによる評価が適用され、論文の公聴会も開催されている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019 ②福山大学ホームページ ③研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

工学研究科

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	毎年、研究科委員会で検証し策定している。学生便覧、HP等により周知している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	社会の要請に応える高度な工学技術者・研究者を目指す点で、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとは一貫性がある。また、達成のため、3つのワークのもとでカリキュラムを編成している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーでのコースワーク、リサーチワーク、キャリアワークの科目を体系的に配当している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	カリキュラムにはないが、全学で行われる教養講座(年5回)への受講を勧めている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学教養講座
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	特論、特別演習、特別研究にてICT等を活用している教員がある。
年度目標	現状を維持する
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①Cerezoの大学院の科目のコース
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	各科目のディプロマ・ポリシー項目の重み付けをしてシラバスの点検を行っている。よって修了での必要単位数と整合性を維持している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①シラバス点検表
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

工学研究科

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	大学院アンケートの結果より研究科委員会で検討している。
年度目標	アセスメントポリシーについて検討する。
年度報告	研究科委員会においてアンケート総括を議題として議論を行った。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①工学研究科委員会議事録 ②大学院アンケート総括
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	大学院アンケートの結果とその対応について院生にフィードバックし、改善している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学研究科委員会議事録 ②大学院アンケート総括
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

工学研究科

基準4. 教員・職員

領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2019年度

工学研究科

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の教育理念を理解し、教育、研究、社会貢献をバランスよく実践できる人材の確保 ・各専門分野において年齢構成と教育・研究業績を考慮した教員の適正配置 ・博士○合教員の確保 ・備品費、研究費などに関しては外部資金を得る努力をする。 ・院生の研究経費、研究旅費の運用の整備を行う。 ・生命系：院生の研究経費、研究旅費の整備を行う。因島キャンパスのインターネット環境を整備する。
-------	--

2019年度

工学研究科

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学長のリーダーシップは確立されており、学長↔研究科長等協議会↔各研究科委員会の流れで、各課題の検討を行っている。全学の連携のために研究科長等協議会が開催されている。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持し、適切に機能した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①評議会議事録 ②研究科長等協議会議事録 ③研究科委員会議事録

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	物理系: 修士課程については原則工学部の各学科長が対応する専攻の専攻長となり、博士課程については、博士課程指導教員の中で専攻長を決めて、各専攻内のマネジメントが行われている。物理系の研究科委員会で物理系内で共通の議題について審議している。 生命系: 生命工学部の3学科長が各学科担当教員の責任者となり研究科長と共同して実施している。教務関連は各学科教務委員が担当している。
年度目標	現状維持
年度報告	適切な役割分担および責任の明確化を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	担当職員が配置され、連携して行事、会議などを進めている。職員が不足しているので教員の負担が多くなっている状況である。
年度目標	学部と連携して人員増員を要望する。
年度報告	配置と役割の明確化は維持されているものの、職員不足の現状に変化はなかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①工学研究科委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	現状の人員での機能性の高め方を検討する

2019年度	工学研究科
中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	物理系: 現在は大学院指導資格者を確保しているが、それを保つために、雑用を減らし、教員全体の研究力・論文執筆力を上げる必要がある。 生命系: 大学院指導資格者数を十分満たしているが、教員の高齢化や研究業績の減少が課題となっている。
年度目標	物理系: 教員が研究力・論文執筆力を向上させて指導資格を維持できるよう検討する。 生命系: 30~40代で研究意欲のある教員の採用を求める。
年度報告	教員資格審査の見直しの検討を行った。 生命系: 30~40代教員1名が採用された。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①Office365の工学研究科専攻長グループのディスカッション ②工学研究科委員会議事録(生命系)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	物理系:各専攻について、規定数以上の〇合教員が確保されている。 生命系:生命工学専攻では27名と十分な教員数となっている。
年度目標	現状維持
年度報告	評議会で設置基準が満たされていることが確認された(物理系、生命系)。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①評議会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development;教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	大学院全体でのFDに加え、工学研究科物理系、生命系独自に実施している。
年度目標	現状維持
年度報告	工学研究科では物理系で1回、生命系で1回のFD研修会を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学研究科FD研修会(8/22)、②生命系工学研究科FD研修会(9/12)
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

工学研究科

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	毎年、大学全体で職員のSDが実施され、教員が参加している。 また研究科独自でも行っている。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系:現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①評議会議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 大学運営の効率改善のためにICTの活用を推進していますか。
現状説明	教務事務については一部ICTの活用が行われている。専攻によっては、電子メールやoffice365を使った情報共有が行われている。
年度目標	office365を用いた情報共有をすすめるとともに、ICT活用の必要性について検討する。
年度報告	電子メールやoffice365を用いた情報共有、研究科委員会会議での紙媒体の配布を最小限に留めた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学研究科委員会議事録 ②office365工学研究科専攻長グループ、③karinフォルダ
次年度の課題と改善の方策	

2019年度 工学研究科

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	校務、教育に時間が取られ、研究に集中できない状況が多い。設備面も備品の購入が困難であるので共同センターの利用へ移行しつつある。
年度目標	改善策について学部とともに検討し、予算要求する。
年度報告	研究科で検討できる改善策はほとんどなく、学部と一緒に検討したが、研究時間の確保は困難であった(物理系、生命系)。共同利用センターへの移行はすでにされている。
達成度	C
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	全学的に、大学業務の合理化を進める必要がある。
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	研究倫理のセミナーおよび理解度テスト、E-ラーニングによるコンプライアンス教育を実施している。
年度目標	現状維持
年度報告	工学部・生命工学部主体で実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究倫理理解度テスト、E-ラーニングによるコンプライアンス教育確認テスト結果
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	各学科での予算で各研究室に適正に配分されている。
年度目標	現状維持

年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①評議会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	公的研究費については事務室で厳正に管理されている。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系:現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①評議会議事録、②研究関連ガイドブック
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

工学研究科

基準6. 内部質保証

領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル?

2019年度

工学研究科

中長期計画	<ul style="list-style-type: none"> 物理系:透明性を確保する。 生命系:全学の自己点検評価組織のなかでの大学院の位置づけを明確にする。 現在までは大学院独自に質保証に関する計画は立てず学部と一体で検討してきたが、今後は大学院独自に質保証に関する具体的方策を検討する。
-------	---

2019年度

工学研究科

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	全学的に行っている。研究科長が自己点検書を作成・提出し、各部署が分担し点検作業を行っている。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系:現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①R1自己点検報告書 ②福山大学自己点検評価規程
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	物理系：自己点検評価結果を専攻長間で実施し、報告書の内容を構成員で共有している。 生命系：自己点検評価結果を学科長間で共有している。
年度目標	全学的な自己点検評価を参考に検討してみる。
年度報告	継続した。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①Office365工学研究科専攻長グループ ②学科長等連絡会議(生命系)③2019年度福山大学自己点検評価書
次年度の課題と改善の方策	自己点検の共有の方法論から検討する
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	全学的なIR協議会が発足され、実施方法について検討している。
年度目標	議事録等のデータを整理し、データサイト(karin)にアップデートする。
年度報告	karin へのデータ提供を行った。
達成度	B
改善課題	IR委員会の成果を取り入れる方法が確立していない。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	IR委員会の成果を取り入れる方法を引き続き検討する。

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	全学や学部の評価の一環として行われている。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系：現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019自己点検報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	・研究倫理の講習と理解度テストの実施 ・コンプライアンスのE-ランニングの実施

年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系:現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①評議会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

工学研究科

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）

2019年度

工学研究科

中長期計画	・物理系:基礎力の育成、幅広い視野から専門課程を学ぶ、共同研究など地域連携を深めることなどを柱とするところを確実に実行するようにしている。 ・生命系:地域連携の強化ならびに瀬戸内圏の特色に根差した教育研究を行うことによって個性化を試みている。
-------	--

2019年度

工学研究科

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	ブランディング事業計画報告会やHPにより周知を進めている。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系:現状同様の周知を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ(https://www.fukuyama-u.ac.jp/project/project_branding/)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	物理系:多くの教員がブランディング事業に参加している。 生命系:主に瀬戸内海の生態系、資源開発、教育についての研究を担当している。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系:現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター議事録 ②福山大学グリーンサイエンスセンターHP

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	主に瀬戸内海の生態系を解明し、資源開発し、その知識や技術を教育資源として地域からの人材を育成する。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系: 研究を通した人材涵養を維持して行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのように取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	一部の教員は地域の企業等と連携し研究活動を行っている。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系: 研究を通した地域創生に継続して取組んだ。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会議事録(例えば、第1回、第2回、第5回) ②福山大学グリーンサイエンスセンターHP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	大学院生の宮地茂記念館での研究発表会や地域の催しへの参加により、地域の方とコミュニケーションを取ることで視野を広げ、研究活動の活性化に繋げる。アンケートにより検証している。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系: 現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学研究科委員会議事録(第17回) ②大学院研究発表会(2/29) ③福山大学研究成果発表会(6/26)

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	① 福山大学プランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	大学院生の研究発表会を宮地茂記念館で行い、校内外の多くの人に参加を呼び掛けている。 一部の教員は地域企業との共同研究を行っている。 社会連携センターと連携し教員の研究成果報告会を校外で行っている。 アンケート等により検証する。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系:現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学院研究発表会(2019/2/29) ②福山大学研究成果発表会(2019/6/26)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	① 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	各研究指導教員により、特別演習および特別研究を通して専門知識・技術以外の態度に関しても指導している。その成績において成果を検証している。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系:現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2019 ②シラバス2019
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

工学研究科

中点検項目	7-2. 福山大学プランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	主に瀬戸内海の生態系、資源開発、教育についての研究を担当している。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系:現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①プランディング事業進捗報告
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	文科省私学ブランディング事業、学内助成金などより獲得している。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系: 現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター議事録②学内助成金申請書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	研究成果発表会、大学HPにて発表する。
年度目標	現状維持
年度報告	物理系、生命系: 現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学院研究発表会(2/29)、②福山大学研究成果発表会(6/26)③福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	